

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
新潟高度情報 専門学校	平成19年1月9日	石澤 直樹	〒950-0084 新潟県新潟市中央区明石1-3-12 (電話) 025-241-0133			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
新潟高度情報 学園	平成10年3月25日	梶坂 昌業	〒950-0084 新潟県新潟市中央区明石1-3-12 (電話) 025-241-0133			
目 的	本校は、学校教育法に基づき、技能者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた、人間性豊かな技術者及び実務者を育成することを目的とし、実践型の授業を中心に企画力や行動力を養い、情報システムに関する幅広い知識と高度な技術を習得し、情報システムの企画、立案、設計、構築、保守が行えるIT業界・職種で活躍できる人材を育成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課程	高度情報システム科	3年(昼)	3,120単位時間 (又は単位)	平成22年文部科学大臣告示第249号	-
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,196単位時間 (又は単位)	1,352単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	572単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
75人	21人	6人	1人	7人		
学期制度	■前期：4月 1日～9月20日 ■後期：9月21日～3月31日			成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 期末試験、平常点、出席点での総合点による評価	
長期休み	■学年始め：4月1日～4月14日 ■夏 季：8月1日～8月31日 ■冬 季：12月24日～1月7日 ■学 年 末：3月20日～3月31日			卒業・進級条件	・年間学業出席率が90%以上 ・成績評価が全てC評価以上 ・学費、諸経費が未納でない	
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 保護者連絡及び本人とガイダンス			課外活動	■課外活動の種類 近隣小学校に出前授業 ■サークル活動(有・無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界等 IT系企業、IT業界 ■就職率 <sup>※1</sup> 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> 100%			主な資格・検定	基本情報技術者試験 応用情報技術者試験 情報セキュリティスペシャリスト試験	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 2 名 ■中退率 9.5 %</p> <p>平成26年4月 1日在学者 21名 (平成26年4月入学者を含む)</p> <p>平成27年3月11日在学者 19名 (平成27年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>精神的疾患や学校生活に対する不安など</p> <p>■中退防止のための取組</p> <p>学生相談窓口として臨床心理士にカウンセリングを行う環境を提供</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: <a href="http://www.nht.ac.jp/">http://www.nht.ac.jp/</a></p>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

企業・業界団体等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、必要となる最新の知識・技術・技能を反映する為「教育課程編成委員会」を年2回実施する

委員会での意見を十分に生かした授業科目の開設、カリキュラムの改善、その他の教育課程の編成を定期的に行うことで、企業・産業界の動向・展望を察知し、社会の変化スピードに合わせた人材を輩出する

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年3月11日現在

名 前	所 属
本間 善夫	日本コンピュータ化学会
折居 進	株式会社 イーエムエス新潟
守橋 主	システムアナライズ 株式会社
後藤 彰宏	株式会社 マルス
石澤 直樹	新潟高度情報専門学校
亘 英一	新潟高度情報専門学校
山田 賢一	新潟高度情報専門学校
樋口 直武	新潟高度情報専門学校
岩野 賢一	新潟高度情報専門学校
相馬 稔	新潟高度情報専門学校

### (開催日時)

第1回 平成26年11月14日 16:00～17:30

第2回 平成27年 1月23日 16:00～17:30

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業からの実施提案、学校からの実施提案それぞれの意見を考慮し また学年・時期に 目指す業種・職種に合わせ、学生に段階的に効率よくテーマを用意し取り組ませる企業等からの講師派遣による校内で実施する実習・演習授業、又は企業等校外で実施される実習を行い、学生指導や学習成果の評価等に関する連携体制を確保する

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
卒業研究	プロジェクトチームを組み、集大成としてシステム又はアプリケーション作成を行い、発表する	株式会社イーエムエス新潟 株式会社マルス
情報リテラシ	企業内で行う新人研修をイメージした、ITリテラシ教育実習、業界での経験などの講演を行う	株式会社マルス

## 3. 教員の研修等

### (教員の研修等の基本方針)

教職員は、その職責を遂行するために各専門分野に関連した実務に関する知識、技術及び技能並びに、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修等を受講し、絶えず研究と修養に努めなければならない

## 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年3月11日現在

名 前	所 属
後藤 彰宏	株式会社 マルス
石澤 直樹	新潟高度情報専門学校長
亘 英一	新潟高度情報専門学校 教務課長
山田 賢一	新潟高度情報専門学校 教務課長
金子 貴之	新潟高度情報専門学校 教務課長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.nht.ac.jp/hyoka.html>

**5. 情報提供**

(情報提供の方法)

URL: <http://www.nht.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報システム科) 平成26年度										
分類			授業科 47 目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			コンピュータテクノロジー	基本情報技術者試験のテクノロジー分野（午前問題）についての知識の習得	1 前	64	4	○		
○			ストラテジマネジメント	基本情報技術者試験のストラテジ・マネジメント分野（午前問題）についての知識の習得	1 前	64	4	○		
○			アルゴリズム基礎	問題を論理的に構造化していく基礎技術力の習得	1 前	64	4	○		
○			Java 基礎	J a v a 言語の理解を通じたプログラミング技術の習得	1 前	64	2		○	
○			情報リテラシー	コンピュータの仕組みの理解及び基本操作の習得	1 前	64	2		○	
○			コンピュータテクノロジー演習	基本情報技術者試験のテクノロジー分野（午前問題）の問題演習	1 前	32	1		○	
○			IT のための基礎知識 (EL)	IT 技術概論	1 前	32	2	○		
○			インターネット入門 (EL)	インターネット基礎	1 前	32	2	○		
○			HTML/CSS	HTML におけるタグ記述やスタイルシートの使い方の習得	1 後	24	1		○	
○			JavaScript	JavaScript の使い方の習得	1 後	28	1		○	

○		コンピュータアーキテクチャ	基本情報試験の午後問題に対応できる知識の習得	1後	56	4	○		
○		アルゴリズム応用	問題を論理的に構造化していく応用技術力の習得	1後	56	4	○		
○		Java 応用	J a v a 言語によるオブジェクト指向プログラムの作成方法の習得	1後	56	2		○	
○		PBL	問題解決を通じたヒューマンスキルの向上	1後	56	2			○
○		検定試験対策	基本情報技術者試験の午前免除試験の合格を目標とする問題演習	1後	28	1		○	
○		コンピュータ入門 (EL)	基本情報	1後	28	2	○		
○		インターネット技術 (EL)	ネットワーク基礎	1後	28	2	○		
○		IT パスポート演習	情報処理国家試験のための問題演習	1後	60	4	○		
○		システム作成	Java によるシステム作成実習	1後	90	3			○
○		Web プログラミング	Web サーバの構築、クライアントスクリプト及びサーバサイドスクリプトの技術の習得	2前	60	2		○	
○		コンピュータテクノロジー応用	応用情報技術者試験のテクノロジー分野についての知識の習得	2前	60	4	○		
○		プレゼンテーション	プレゼンテーション技術の習得	2前	60	1		○	
	○	システム構築実践	演習を通じたシステム構築スキルの習得	2前	60	1		○	

○			データベース	データベース(SQL)の知識・技術の習得	2 前	60	2		○	
○			ネットワーク技術	ネットワークの知識及びネットワーク機器などの設定技術の習得	2 前	60	4		○	
○			C言語	C言語の理解を通じたプログラミング技術の習得	2 前	60	2		○	
○			情報セキュリティ入門(EL)	セキュリティ技術	2 前	30	2		○	
○			プロジェクトマネジメント入門(EL)	システム管理	2 前	30	2		○	
○			基本情報演習	情報処理国家試験のための対策	2 後	120	6		○	
○			Android基礎	Androidアプリ作成の基礎技術の習得	2 後	56	2		○	
○			サーバ構築	サーバ構築、仮想化及び運用方法及び、基本的なサーバ運用管理スキルの習得	2 後	56	2		○	
○			PBLⅢ	PBLⅡに引き続きヒューマンスキルの向上	2 後	56	2		○	
○			IT実務演習	提携企業内での研修	2 後	56	1		○	
○			キャリアデザイン	就職活動及びビジネスマナーの習得	2 後	56	2		○	
○			組込み基礎	組込みシステムの仕組みを及びプログラム制御技術の習得	2 後	56	2		○	
○			サーバサイドJava	サーバサイドJavaプログラミング技術の習得	2 後	56	2		○	

○			ドキュメント技法	システム設計・実装時において作成するドキュメント類の作成方法の習得	2後	56	4	○		
	○		応用／基本情報演習	情報処理国家試験のための対策	2後	90	6	○		
	○		システム作成Ⅱ	組込み系システム作成実習	2後	90	6			○
○			Linux	Linux サーバ構築	3前	60	2		○	
○			Android	Androidアプリ作成の技術の習得	3前	120	4		○	
○			組込み応用	組込システム基礎に引き続き構成や仕組み、及びプログラム制御技術の習得	3前	60	2		○	
○			システム研究	個人によるシステム開発全般の演習	3前	120	4		○	
○			クラウド技術	クラウドサービス実践	3前	60	2		○	
○			基本情報演習	情報処理国家試験のための対策	3前	120	6	○		
○			卒業研究	グループによるシステム開発全般の演習	3後	336	7			○
○			応用／基本情報演習	情報処理国家試験のための対策	3後	90	6	○		
合計				47科目	3,120単位時間(135単位)					